

岩見沢市では、地域特性である高度ICT基盤を駆使し、農業へ有効に利活用することにより、農作業の省力化・効率化や作物の品質向上など、地域農業の競争力強化を目指している。

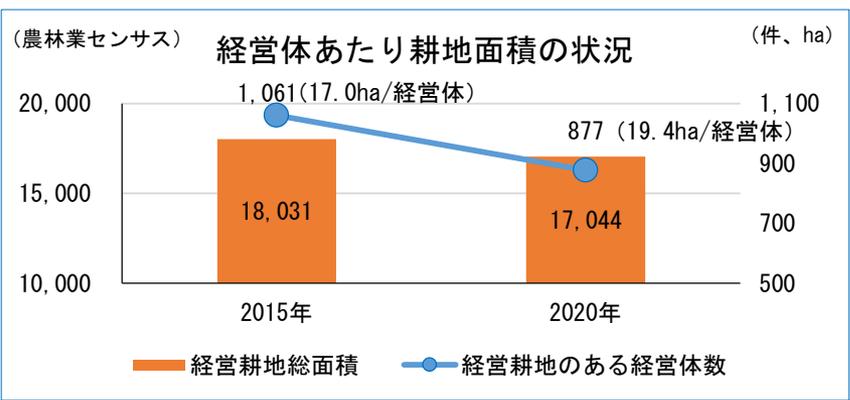
関連数値目標・KPI ICT機器の導入実績(新規分)

	基準値 (H27)	実績 (R元)	目標値 (R元)	進捗率 (%)
自動操舵	29台	153台	85台	180.0%
RTK-GPS	27台	143台	62台	230.6%

取組の推進体制

NTTグループ、北海道大学、岩見沢市による産学官連携やステークホルダーとの共創のもと、農業における課題解決や生活環境の向上など、「スマート・アグリシティ」の実現を目指す

岩見沢市における農業経営体の状況



○経営体あたりの耕地面積が増加
(生産の維持には農業経営の安定・経営体質の強化が必要)

取組事例

農作業の省力化・効率化や作物の品質向上

- 主な取組
 - ・「ICT農業普及促進事業」2016年度～ ※地方創生交付金活用 営農者の設備整備(自動操舵等)に対する支援
 - ・内閣府「次世代農林水産業創造技術で取り組む多収と高品質を実現するための気象変動に対応した最適栽培管理システム」2017年度～ 内閣府SIP(戦略的イノベーション創造プログラム)パイロットファーム指定地 マルチロボットシステム稼働検証、自動水管理システム検証
 - ・内閣府「未来技術等社会実装事業」2018年度～ 北海道・岩見沢市・更別村による実証 スマート農業実装(ロボットトラクター、ドローン等)
 - ・農水省「スマート農業加速化実証事業」2019年度～ スマート農業の本格実装に向けた先行実証
 - ・総務省「ローカル5G等を活用した地域課題解決実証事業」2020年度 スマート農機の遠隔監視制御に関するローカル5G技術実証等
 - ・農水省「スマート農業実証事業(ローカル5G)」2020年度～ スマート農機の導入による農業経営評価やシェアリング、作業請負など 新たなビジネスモデルの創出に向けた検討等



- 主な成果
 - ・生産者におけるスマート農業のメリット 作業の精密・効率化や農地拡大への対応 (複数台の機械操作による効率化、コスト削減、品質改善や収量増)